

「第2期安曇野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の政策体系(案)

2020年3月9日 まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議 資料1

【総合戦略の趣旨】

「人口減少を和らげるとともに人口減少に適応したまちをつくる」

(戦略の位置づけ)
 ・まち・ひと・しごと創生法に規定する「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」
 ・安曇野市総合計画の下位計画
 ・SDGs達成に寄与するもの

【総合戦略の目標】

2040年度 人口
85,000人の
田園産業都市
安曇野の実現

人口ビジョン 年度別人口目標

2025年度 91,500人

2030年度 89,000人

2035年度 87,000人

2040年度 85,000人

2045年度 83,000人

第2期戦略(2020~2024年度)

基本目標と数値目標	主要施策とKPI	具体的取組(事業)
<p>①新たな雇用を生み出す</p> <p>◆生産年齢人口に占める就労者数の割合:2024年度までに2.5%増(現状 20.6%)</p> <p>◆認定農業者数:新たな認定農家の掘り起こしと育成により現状維持(現状 280人)</p>	<p>○商工業の振興</p> <p>◆5年間で新規起業家 14人</p> <p>◆地域未来投資促進法を活用した「あづみ野産業団地」の拡張等により企業7社を誘致</p> <p>○観光の振興・戦略的な地域ブランドの創出</p> <p>◆観光消費額 2018年比毎年度4億円以上増 ◆外国人延宿泊者 毎年度1,000人増</p> <p>○農林水産業の振興</p> <p>◆新規就農者 50人 ◆林業従事者 4人増</p>	<p>○魅力ある個店や商店街づくりに向けた起業支援</p> <p>空き店舗対策、創業実現セミナー</p> <p>○雇用拡大に向けた新たな工場用地の造成</p> <p>あづみ野産業団地拡張事業、遊休工場用地の活用</p> <p>○観光地経営体制の強化、地域資源を活用したコンテンツの開発・発信</p> <p>持続可能な観光地経営に向けた体制づくり・人材育成、インバウンド・登山愛好者等受入体制の整備、体験型観光・滞在周遊型観光の推進、地域資源「天蚕」振興</p> <p>○農業者の育成、農地の遊休荒廃化の防止、健全な森林の維持</p> <p>就農相談会、各種就農支援制度、海外販路の開拓、松くい虫対策、森林環境譲与税活用等による森林整備の推進</p>
<p>②移住定住の促進とともに、関係人口を拡大する</p> <p>◆社会増減数:5年間で1,500人増(2019年 171人増)</p>	<p>○移住・定住の促進</p> <p>◆市等の移住支援による移住者 毎年度5人増(現状65人) ◆新規就労・移住マッチング20人</p> <p>◆小中学校と地域の連携 現状以上</p> <p>○交流活動の推進</p> <p>◆50歳未満の初来訪者の再来訪意向率 増加(現状76%) ◆農家民宿の年間受入生徒 毎年度50人増(現状1,336人) ◆産直センター販売強化 毎年度50万円販売額増</p>	<p>○官民連携での移住支援の推進</p> <p>首都圏での移住セミナー、移住希望者対象の市内体験ツアー、移住相談、UIJターン就業・創業移住支援事業、おためし住宅、空き家バンク、空き家の利活用方策の検討</p> <p>○コミュニティスクールの推進</p> <p>学校と地元による会議、活動参加者(学校応援隊)募集の強化</p> <p>○安曇野ファン拡大に向けた交流の推進、魅力発信</p> <p>交流事業の推進、観光体験プログラムの開発、時事・旬のイベント開催、ネットワークを生かした情報発信の強化</p> <p>○農家民宿の充実、首都圏への市内農産物等の販売強化</p> <p>農家民宿受入拡大、産直センター業務の拡充、首都圏・友好都市でのPR強化</p>
<p>③安心して出産し子育てできるまちをつくる</p> <p>◆自然増減数:現状の水準を維持(2019年 472人減)</p>	<p>○出産・子育て支援の充実</p> <p>◆出産・子育てがしやすいまちと思う市民の割合 増加(2018年度 38.3%)</p> <p>◆放課後児童クラブの小学6年生までの受入拡大 2024年度末時点で2校</p> <p>○仕事の両立</p> <p>◆実践型業務研修による就業者 8人</p> <p>◆テレワークセンター登録者 100人達成</p>	<p>○結婚に対する支援</p> <p>出会いの場となるイベント・セミナー開催、お見合い、個別相談、少子化対策の検討</p> <p>○妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援</p> <p>相談窓口・産後ケア、乳幼児健診・訪問・相談等の母子保健事業、関係機関との連携、不妊・不育症治療費助成制度</p> <p>○信州型自然保育の推進</p> <p>信州自然型保育の推進(特化した園導入)、幼児教育無償化対象外となる子どもへの支援、児童館事業の見直し、民間子育てサークルの支援、放課後児童クラブの受入拡充</p> <p>○若い世代の就業支援、仕事と子育ての両立</p> <p>実践型業務研修による正社員化支援、若者・女性技術者の育成、テレワークの推進</p>
<p>④人口減少社会においても安心して暮らし続けることのできるまちをつくる</p> <p>◆安曇野市に住みたいと思う市民の割合:増加(2018年度 75.9%)</p>	<p>○協働によるまちづくりの推進</p> <p>◆区への加入世帯数 5年間で250世帯増</p> <p>◆市民活動センター250団体登録達成</p> <p>◆地区防災訓練実施率 70%以上を維持</p> <p>○里山再生(さとぷろ。)の推進</p> <p>◆「さとぷろ。」サポーター登録250人達成</p> <p>○秩序あるまちづくりの推進</p> <p>◆立地適正化計画に基づく居住誘導区域内の新築割合 割合の維持・増加(現状 区域39%)</p> <p>○スポーツ活動の充実</p> <p>◆自転車活用推進計画の策定</p> <p>◆スポーツを楽しめる環境が概ね整っていると 思う市民の割合:現状以上(2018年度 28.5%)</p>	<p>○協働の実践、自主防災組織の育成</p> <p>区の意義や重要性の理解促進、市民活動サポートセンター登録団体数及び交流機会の拡充、地域自主防災組織が担う「共助」強化</p> <p>○森林の持つ公益機能の発揮</p> <p>「さとぷろ。」の活動充実による生物多様性に富む自然環境の形成、土砂災害の防止、水源涵養機能の維持向上</p> <p>○都市のコンパクト化と交通ネットワーク形成</p> <p>駅や支所を中心としたコンパクトなまちづくり、駅の利便性向上、公共交通のあり方検討</p> <p>○スポーツ活動の充実</p> <p>サイクリングコースの設定、自転車による健康づくり実証実験、自転車活用推進計画の策定、新総合体育館における民間のノウハウを活用したスポーツ教室やイベントの開催</p>